

梅鶯仏教壮年会報

第75号
2009年
11月15日

梅鶯仏壮報恩講

十一月二十八日(土)

夕六時より

○お勤め(正信偈行譜)

○法話

○恩徳讃

※法要後懇親会

会員以外の一一般の皆様にも、是非とも法要にはお参り頂きたくお願いします。

#####

この身体が、一番清潔なのはーそれはー沐浴(ゆあみ)して、身の垢(あか)を洗い流したときである。この心が、もつとも清浄なときというのは、反省し、懺悔して、心の垢を洗除したときである。

寺川幽響先生

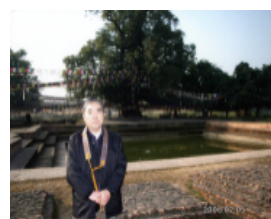
法輪寺報恩講

十二月十九日(土)

講師 夏木一丸師

中央仏教学院で学んだこと

副会長 森勝昭



平成18年9月1日から同21年8月31日までの3年間、中央仏教学院通信教育部(京都市角坊別院の一角に所在)において、親鸞聖人のみ教えや、仏教・真宗など何の知識もない自分を反省し、この世に生かされた人生に忘れものがないようにと、今まで65年間無駄ではなかった法(みのり)に出会って、これからも日々を大事にしたいの思いがあり、通信教育を学ぼうとしたご縁でした。

しかし、通信教育を受講したものの、平成19年度の宇賀野区長を引受け、課題レポートに手が廻らず、一年間の空白が出来てしまいました。

八幡別院では毎月1回の学習会でお勤めの指導があり、それは基本中の基本の教えで、いわゆる宇賀野節のような田舎節は通用せず、に面食らったり、出来ると思っていた自分がはざかしい体験をしました。

教・3年間の内、各年度5教科(宗教・仏教・真宗ⅠⅡ・寺と教団、他にお勤め(正信念仏偈行譜))が合格となり、10点満点で6点以上で合格となり、1回のみの3年間合格出来ない時は留年4、6年が必修となり、レポートは900字原稿用紙1枚、自分の思い、考え方で書かねばならず、教科書のまる写しではダメです。というものであり、むずかしい設問もありました。

どうしても分からない設問は、先輩の同窓生や、時には法輪寺住職さまのアドバイスを頂き、お陰様で何とか卒業しました。ちなみに平均は7.7点でした。

レポートを書き点数を貰うための勉強ではない、自分自身への生き方を問う問題だと気づかれました。

この3年間、貴重な体験をさせて頂き、自分の人生観が少しは変わった? ような気がします。

さらにつぎのステップに向かって、法輪寺住職様の勧めもあり、専修課程に入学しました。

これから聴聞を重ね、如来さまの本願を信じ、生涯聞法の道を歩み続けます。

合掌

前号からのつづき

ところが、50代を過ぎ
て60代を迎えた頃に、ま
た鬱状態がやってきたそう
です。



と書くのだそうです。
 そうしたらかえって気持ちが解放され、なにか風がふつと吹きすぎるような気持ちになりました、少しずつ鬱状態から解放されたといふのです。

○あながとノート



「そこで今度は、
「あんが
とノート」というのをつけ
始めたそうです。
あんがとは五木さんが
かつて住んでいた北陸の方
言で「ありがとう」という
ことですが、一日に一行、
なにか「ありがたい」と感

うで、

○阿弥陀様のところ

「悲」と言う字は、「胸が張り裂ける心」という意味で、仏さまは私の悲しみを一緒に悲しみ、救わずにはおかれないと救済の本願を立てて下さっているのです。

「**「飲む」**の中で生活を送り、「**「悲しみの心」**を大切にし、そして最後には報恩感謝の「**「ありがたい」**と思える、そういう豊かな人生を目標にしたいものです。